２０２４年7月１日発行　第３１号

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒３５０－０３１４　埼玉県比企郡鳩山町
楓ケ丘２－２－１かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール　kawasemi3001@gmail.com

☎０４９－２２７－３００１　FAX０４９－２７２－７０９２　ホームページ　https://hatoyama.info/

７月・８月の活動予定

■今年の７、８月はクールダウン月間
下半期に備えじっくり企画を練りましょう

５月、６月は年度初めで総会があり、エコフェスタ比企や共同菜園の作付け、草刈り、そして初企画の「アンズジャムづくり＆アンズ畑見学」企画と大忙しでした。

そして、８月２２日開催の「熊井の森観察会」の後、今年の秋には、９月に味覚満喫イベントとして「栗ひろい」「芋掘り」「ハト麦収穫」「協生農法実験地の作業」があり、１０月から冬にかけては、いよいよ、埼玉県森林づくりボランティア活動育成補助金事業の２年目となる“里山”づくり作業が始まります。

活動の目標は「楽しみながらの保全活動の継続」「助成金や身銭切りを前提にした手弁当主義の無償ボランティアから、経費（日当を含む）だけは払える有償ボランティアへの移行」ですが、課題はいくつもあります。

（１）持続可能な環境保護活動へ

味覚満喫イベントは、単なる“収穫体験”イベントではなく、体験を通して「地域の暮しとそれを支える自然の素晴らしさ」を知ってもらう、いわゆる「エコツーリズム」企画と位置付けられますが、現状では、たっぷりと手間暇かけて準備し、スタッフ数を極力減らし、イベント参加料金を格安に押さえて、どうにかトントンです。活動資金の捻出などまだまだ先のことです。「いいことやっているんだから、持ち出しでも参加してよ」だけでは、若い世代は仲間になってくれません。持続可能な環境保護活動の実現のためには、自然保護団体らしい企画であることを踏まえつつ、自然保護活動を支える人材育成と活動資金の確保により貢献できる方策はないか。

（２）地域の歴史と植生を踏まえた「里山」づくりを

今年５月のＺＯＯＭ学習会「里山に入る前に知っておくべきこと」での講師・星昇先生の話しは目からうろこでした。「里山」は人間がほどほどに環境負荷を与えながら出来上がったもの。アニメ「となりのトトロ」で描かれる里山は、戦後の一時期（昭和３０年代）の雑木林のイメージであり、あれだけが里山だったわけではない。保全再生したい目標とする「里山」の姿は、植生遷移（生きものの生息も変化）のプロセスのどれかに目標を定め、定めたプロセスでの生態系の保全を図るほかないのではないか。

これから２ヵ月間、何回かのワークショップで集中的に話合い、知恵を出し合いたいと思います。

６月の活動報告

■共同菜園の竹枝始末作業

６月１０日（月）環境フォーラムの会員６人で借りている「共同菜園」（略称　FF１号地）の竹枝始末作業をしてきました。水くみに行く通路づくりのために切り出した竹が山積みになっているので、枝払いをしてハト麦の天日干しの際のハザギにして、細かい枝はこれからもっと細かくして燃やすなりして片づけます。畑をお借りしているわけだから、畑の周りもきれいにしておかねば、というわけです。６月からは駐車スペースも貸していただけるようになり感謝です。６月７日には、共生農法の試験栽培地（FF３号地）とピザ窯の周り、それに辻川の草刈りも。この時期は草刈りつづきですが、やるっきゃない。野鳥観察舎に向かう道も石場沼駐車場も草ぼうぼうになっています。はと麦畑（FF２号地）の草刈りも待っています。

７月・８月　活動スケジュール

７月　７日（日）資源回収　午前８時半～９時
　　９日（火）定例理事会＆例会　午前９時半～お昼
　　定例観察会　午後２時～４時
　　３０日（火）「熊井の森通信」３２号発行
８月　４日（日）　資源回収　午前８時半～９時
　　１３日（日）定例理事会　午前９時半～お昼
　　２２日（木）自然観察会(串田さん解説）午後２時
　　３０日（金）「熊井の森通信」３３号発行

６月の活動報告

■アンズジャムづくり＆アンズ畑見学イベント

お客さんもスタッフも和気合いあい、すごく楽しかった！

環境フォーラムが『味覚体験企画』として、鳩山町地域の農産物収穫体験を実施して、今年で5年目になります。

今年は4月の『タケノコ掘り体験』に続き、初めての企画『アンズジャムづくり＆アンズ畑見学体験』を6月16日日曜日に開催しました。

環境フォーラムと泉井交流体験エリアの指定管理者との共同企画です。鳩山町のアンズ栽培はちょっとした歴史があり、今もアンズ生産者組合の方たちが熱心に栽培販売をしています。

4月初めに参加募集を募り、インターネットにアップし、町の広報にも掲載されると、すぐに参加申し込みの連絡が入ってきました。高坂、坂戸市、東松山市と近隣からも申し込みがあり、さすがアンズの魅力発揮だと、驚いたり喜んだり。そして、なんと、参加者12名のうち、男性が3名もいて、男女いっしょに参加出来ることは、内容も深まり、素晴らしいことだと思いました。

スタッフは5名。企画の内容や日程の流れなどを考えるミーティングを何度も重ね、当日を迎えました。

9時30分に集合し、環境フォーラムからの挨拶後、早速、エプロンをつけて、調理室へ移動し、3台の調理台へ5名ずつ立ちました。今日、初めて顔を合わす方々ですが、すぐに打ち解けて楽しそうに話していました。

アンズの種の取り出し方から説明

を始め、砂糖をまぶした状態までの作業をした後、アンズ畑へ見学に出かけました。現地では、生産者組合の方が、アンズ栽培が始まった経緯や、5種類ものアンズの木が植えてあること、今年は実る数が少ないけれど大粒が多いこと、などを話してくれました。参加者からも次々と質問がありました。その後、調理室へ戻って、ジャムづくりを再開しました。

おいしそうに実ったアンズに思わず歓声

「うわぁ、すごい、大きいな！」これがアンズ畑に着いた時の第一声。今年は例年より数が少なく、特に大きいとのこと。皆さんは写真を撮ったり、見学したり。アンズ組合の方の話に耳を傾け、これまでのご苦労談に感心したり、薄ピンクの花の時期も美しいそうで、お花も見たいと期待したり！　畑を実際に見ていただいて良かったと実感した。今後、更に大きな事業になるよう私も応援していきたい。

（タカコ）

見学している間に、水分があがってきたアンズを煮込んでいきました。鍋の底をかき混ぜる作業もグループの皆んなで譲り合って、焦げないように慎重に慎重に煮詰めていき、木べらで混ぜて底が見えるようになると、ジャムの出来上がりです。それをビンに詰め、脱気するところまで、和気あいあいと作業は軽快に進みました。各グループ、楽しそうに声かけあったり、相談し合ったり、器具洗いや片付けをしたりと、グループ一団となって進んでいきました。笑い声や笑顔が絶えませんでした。

12時頃の軽食は、出来立てジャムを柔らかいパンとヨーグルトにのせて、紅茶と共に味合いました。フワフワ食パンに甘酸っぱいアンズジャムは、とても良い組み合わせでした。お土産の、まだ温かい自作のアンズジャム2ビンを

６月の活動報告

手に取り、皆ニコニコ顔でした。
「ジャムはよく作るが、アンズジャムは初めて」と男性。「とっても良かったので、毎年企画してください」「アンズ畑へ行って、よかった」「初めて会った人たちでも、協力してできたので楽しかった」「意義ある一日でした」などのうれしい感想がいくつもありました。（嵯峨）

■「里山って何？」ＺＯＯＭ学習会を開催

６月１４日（火）午後2時より、ＺＯＯＭ学習会を開催。テーマは「里山に入る前に知っておくべきこと」。講師は星（富田）昇氏。今回の学習会のために新しく、パワーポイントをつくっていただき、「里山」という言葉がどのようにして広がって行ったかの説明の後、熊井の森の昔の航空写真と最近のものとを画面で比較しながら、雑木林の利用のされ方の変化を推測したり、事前の質問項目に答えていただいたり。生態系や植生の基礎知識もわかりやすく講義。予定オーバーのあっという間の２時間でした。

「熊井の森」づくりの基本知識　①

“里山”お化けの正体を知りたい

先日、福島県天栄町在住の里山研究家・星昇様を講師としてオンラインでの学習会が開かれました。近代化以前～現在にいたるまで、当時書かれた文献の挿絵や絵画、写真などといった資料を基に里山史を紐解き、「里山」という得体のしれない言葉の解像度を高め、輪郭を見出せないか、という訳です。

勉強会での講演内容を熊井の森通信に載せるにあたり、質疑応答を交えた2時間半ものお話を、1度や2度の記事にまとめるのは不可能であると察し、いくつかのキーワード、例えば「植生遷移」や「萌芽更新」など、自然環境保全の際の基本的な知識を中心に数回に分けてご報告します。

初回の今回は、そもそもなぜこの講習会を開催するに至ったのか、その経緯を紹介します。

はとやま環境フォーラムは、昨年４回のワークショップを開いて、熊井の森に関わる中で取得した約２．３ｈａのトラスト地を含めた熊井の森のより良い在り方について度々議論をしてきましたが、折に触れ「里山のように」とか「里山として」のような使われ方で「里山」という言葉が出てくるものの、その言葉が指すもののイメージが発信者によって異なっていて姿が定まらず、まるでお化けのようで着地点が見いだせないという状況になっていました。

▲里山のイメージを作り上げた写真集、今森光彦撮影「里山物語」（１９９５年　新潮社）

そこで、自分たちの持っている「里山」という概念を共通のものとすべく、勉強会を開こうという流れとなりました。

昨今「里山」という言葉を聞く機会は意外と多いと感じています。自然環境に興味をもって少しでも調べると国や企業、教育機関、我々のような各地のNPOまで、どこもかしこもが「里山」という言葉を自分たちなりの味付けをして用いていますが、里山とはいったい何なのか。今後、数回に分けて行う報告がこれらの「里山」の理解の一助になればと思います。

ニーハオ　熊井の森歳時記

七夕の夜、天の川にカササギの橋？

▲カササギ

もうすぐ七夕がやってきます。中国の民間伝説では、この日の夜はたくさんのカササギが群れになって、天の川の橋「鵲橋」を作り、織姫と彦星の一年に一度の再会のお手伝いをするようです。

日本ではカササギが九州中心のみに生息しているようですが、中国ではかなりポピュラーな鳥で、鳴き声が「喜事到、喜事到」（シーシーダォ、良いお知らせの意味）と聞こえるので、縁起の良いことの象徴とされ、切り絵や絵本などの絵柄としてしばしば登場します。

実はカササギもカラス科ですが、飛翔時の姿が本当に魅力的です。光の加減で黒い羽が青と紫に見えて輝き、広げた翼と尾羽が緻密な図形のような独特な美しさがあります。

それに、カササギは抜群な記憶力を持つマメな鳥で、せっせと小枝を集めては大きな巣を作りますが、しばしばキジバトに占用されてしまうことがあるんです。巣作りが得意な鵲の巣にキジバトが住み着くという意味から、「鵲巣鳩占」（じゃくそうきゅうせん）という諺（他人の地位や成功を横取りすること。または、嫁いできた女性が夫の家をわが家とすること）にもなっています。中国の実家ではよく見かける鳥なので、七夕の際に天の川を眺める度にしばしの郷愁を誘います。（王　菲）

熊井の森トラスト基金への支援を

★１口　５０００円から

＜振替口座＞　■ゆうちょ銀行
記号番号　００２１０－４－１４３２０７
加入者名　熊井の森トラスト基金

＜普通口座＞　■ゆうちょ銀行　支店　〇三八
口座番号　９４７２６６４
口座名義　クマイノモリトラストキキン
（熊井の森トラスト基金）

★年会費　３０００円支援の場合

■ゆうちょ銀行　店名　〇三八　店番０３８　普通預金
口座番号　９６６５６９８１
口座名義　ﾄｸﾋﾞﾊﾄﾔﾏｶﾝｷｮｳﾌｫｰﾗﾑ

森の中へ

～ 自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り⑤ ～

つる植物は森の再生に大切な役割も

テイカカズラ（定家葛）は、キョウチクトウ科テイカカズラ属のつる性常緑低木であり、名前は、能の演目のひとつ「定家」より、式子内親王を愛した藤原定家が、死後も彼女を忘れられず、ついに定家葛に生まれ変わって彼女の墓にからみついたという伝説から来ているとされています。

根で他の木にくっつきながら上の方まで伸びてゆき、５月～6月にジャスミンのような良い香りのする白い花を咲かせ、風に乗ってうっすらと花の香りが漂います。秋にはふわふわの綿毛で種を飛ばし散歩中に見つけると、「ケサランパサランみっけ！」（注）となんだかうれしくなってしまうものです。

つる植物と聞くと、「絡んだら木に悪いのでは？」と思ってしまいがちですが、そうでもありません。テイカカズラは元の木を絞め殺したり、絡んだ根から栄養を奪ったりなどはしないため、あまり影響を与えていないと言われています。また、適量適所であれば、フジなどの絞め殺し植物によって枯れて木が倒れることもあり、倒れた木は他の生き物の糧となり、空いた空間から降り注ぐ日の光が今まで影になっていた若い木々を成長させるエネルギーとなる大切な森のサイクルの一つとなっています。(愛場　結偉)

▲テイカカズラの花
（注）江戸時代以降の民間伝承上の謎の生物とされる物体

定例観察会のご案内

はとやま環境フォーラムでは月に一度（第２火曜日　午後１時半～３時過ぎ）、熊井の森に入り観察会を行っています。その時々に出会えた生き物を記録し、熊井の森のより良い在り方を模索するため継続的な森や周辺の変化を楽しみながら調べています。ご興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。

集合場所：熊井の森・石場沼下の空き地
（駐車場としてお借りしています）
集合時間：午後１時半　（終わりは午後３時過ぎ頃）

★熊井の森をみんなと安全に歩ける格好の機会です。足の便の都合のつかない方はご一報を。ニュータウンかわせみハウス前で待ち合せて相乗りで向かい、帰りも一緒できます。